

児童発達支援 放課後等デイサービス

支援プログラム

一般社団法人 CIS

(序文)

一般社団法人 CIS ではお子様の自立に必要な 5 領域について総合的な支援を目的に児童発達支援及び放課後等デイサービスの運営を行います。

(運営基準)

一般社団法人 CIS ではお子様ひとりひとりの特性や発達似合わせ、地域社会でそれぞれあった自立を目指すために児童発達支援・放課後等デイサービス共にプログラムの基本として

- 健康・生活
- 運動・感覚
- 認知・行動
- 言語・コミュニケーション
- 人間関係・社会性

の 5 領域の支援に加え、学童期、思春期の放課後等デイサービスにおいては

- 自己肯定感や達成感
- 仲間の形成
- 孤立の防止

を個別支援計画に盛り込んだ支援を提供していきます。

支援プログラム

space Kid's.con プ・ア・フ°

作成 令和6年4月1日

■理念

何人も大切にされる社会の実現に寄与することを目的とする

■営業時間

火曜日～土曜日 10:00-17:00 (12:00-13:00を除く)

(休業日)日曜日 月曜日 12月30日～1月3日

送迎なし

■支援内容

お子様一人一人の発達や特性に合わせ、日常生活の動作指導、集団生活での適応支援、社会的に自立を目指す基盤を形成するための療育を提供します。

プログラムの基本

- 健康・生活
- 運動・感覚
- 認知・行動
- 言語・コミュニケーション
- 人間関係・社会性

上の5領域を柱に個々のペースに合わせ丁寧に発達を促していきます。

■総合的な支援方針

「人と一緒に楽しむ」が療育のスタートとなります。子供達にとって楽しい時間は五感を使って情報をキャッチし、感情の表出も増えます。

子供達の世界に私たちが少しずつお邪魔していきながら、共有できる世界を見つけその世界を広げていきます。

療法士、保育士、児童指導員、関わる指導員皆の目で子供達を見て情報を共有し様々な角度からアプローチをする体制をとります。

生活の基本となる身辺自立をはじめとし、様々な生活動作につながる体の動きから手指の使い方をベースに5領域にもバランスよく広がるようなプログラム作りを心掛けていきます。

本人支援が家庭や関係機関へ広がっていくことを大切に考え、各機関との連携を積極的に行っていきます。

■支援目的 支援方法

●健康・生活

1)基本的な生活のスキル、動作取得 生活習慣の形成

- ・入退所時の身支度が自分でできるようになる
- ・身だしなみを整える
- ・靴、衣服の着脱
- ・トイレ自立を目指す（排泄トレーニング 排泄リズムを整える）
- ・自分の持ち物を決まった場所にしまう（持ち物の管理ができる）
- ・自分の持ち物を自分で持つ
- ・挨拶 お返事

2)健康状態の維持

- ・健康管理 病気等予防への配慮
- ・手洗い うがい 体温を測る

◎支援方法

- ・絵カード支援 （入所後の流れを順番にボードにて提示 一つずつを確認しながら身支度を進める）
- ・入所後の流れを覚える （持ち物をしまう～手洗い～検温）
- ・トイレ自立支援 個々での対応（各家庭との相談により声掛けのタイミングを決める）
- ・入退所時の挨拶 時間にあつた挨拶をする（おはようございます こんにちは さようなら）

*慣れるまでは指導員と一緒に→慣れたら少ない声かけでできる→1人でできるようになる

●運動・感覚

1) 動作の基本的技能の向上 筋力の維持・強化

- ・粗大運動 体の大きな動きの安定

◎支援方法 プログラム例

- ・平均台 ステップを歩く 渡る 飛び越える
- ・ソフト階段昇降（不整地で歩く）
- ・トランポリンを飛ぶ（両足で飛ぶ→平地で両足で飛ぶ）
- ・縄跳び ボール投げ けんけんぱ スキップ（協調運動）
- ・ダンス（動きの模倣）音を聞きながら動く

2) 手指動作向上 両手動作

- ・生活動作（食事 着替え）
- ・両手動作（左右別々の動きの取得）

◎プログラム例

- ・スプーン動作（すくう 目的物に入れる 運ぶ）
- ・手遊び歌（指を分離させて使う）
- ・ハサミ（両手動作）
- ・折り紙（折る、ちぎる）
- ・タオル電車（つかまる、握る）
- ・絵本めくる（親指 人差し指） ・おままごと

3) 感覚特性への対応（感覚の偏りに対する環境調整支援 構造化）

- ・感覚過敏、鈍麻に合わせた環境調節
- ・保有する感覚特性を活用できるような支援

◎プログラム例

- ・ちょちょ遊び ・タオルブランコ ・ソフト積み木 ・粘土
- ・のり ・水お絵描き ・砂遊び

●認知・行動

1)時間の感覚（次の行動への切り替え）

- ・時間に流れがあることを理解し自分の行動の手がかりとすることができる。
- ・写真や絵でスケジュールを示す 行動の見通しを立てる（本人の特性に合わせた対応方法）

◎支援方法

- ・スケジュールを決める 終わったら終わった印をつけて次の課題に進む
- ・時計の数字とスケジュールを連動させる 時計を確認、意識する

2)模倣（行動の模倣）情報の取得

- ・相手からの情報をキャッチし表出する
- ・動作、行動の模倣

◎支援方法

- ・アニマルムーブメント ・見本を見て同じものを作る（積み木 ブロック）

3)数量、大小、色等 様々な物の概念の習得

- ・数量、形の大きさや重さ、色の違いの理解

◎支援方法

- ・くるくるチャイム（赤青黄白緑）・ソフト積み木（大小形）・積み木（形色）
- ・ブロック ・おままごと ・パズル ・クレヨン（色）
- ・ボール（大小）・ねんど ・絵本

4)不適切な行動への対応 支援

- ・認知の難しさ、コミュニケーションの難しさから生ずる行動の予防、適切行動への対応

◎支援方法

- ・視覚的な支援 絵カード

●言語・コミュニケーション

1)他者に自分の気持ちを伝える

- ・ジェスチャーや指差しで伝える（ことばをのせる）

◎支援方法

- ・絵カード ・指差し ・オノマトペで表現 ・本人の気持ちの代弁 ・絵本
- ・パズルでお話し

2)実際に見た物や体験と言葉の意味を結びつける 自発的な発声を促す

◎支援方法

- ・本人のお気に入りのおもちゃ、遊びの中で状況を言語化する（形 色 形状 状況）

2)読み、書き

- ・ひらがな（読み書き）

◎支援方法

- ・絵本 ・絵カード ・カルタ ・パズル ・線結び（運筆） ・図形模写

●人間関係・社会性

1)他者との関わり 人間関係の形成

- ・指導員との信頼関係を構築する（安心できる土台を作る）

◎支援方法

- ・好きなおもちゃ、物での関わりの中でやり取りの経験を積み重ねる（順番に使う 交換して遊ぶ 貸し借りの成立）

2)1人遊び～並行遊び～共同遊びへの発展

- ・共同注意 ・三項関係 ・感覚遊びから一緒に遊ぶ 見立て遊び

◎支援方法

- ・見立て遊び ごっこ遊び（ぬいぐるみ おままごと 車 電車を走らせる）

3)集団への参加 協調性 ルールの理解 ルールを守る（順番を待つ）

◎支援方法

- ・ルールのある遊び（しっぽとり 鬼ごっこ かくれんぼ 椅子取りゲーム）
- ・一緒にルールを決める（自分で決めたルールを守って遊ぶ）

【専門的支援】（個別実施）＊利用者全員対象

お子さんの良い部分を伸ばし、苦手な部分をサポートしていけるよう専門的見地から指導法やプログラムを作成し、個別指導を行う。

家庭での様子、集団での様子を利用時や面談で聞き取りをする。

アセスメント、モニタリングを丁寧に行い課題への道筋を明確にし、個別支援計画書を作成する。

ご家庭から

- ・手づかみで食べてしまう（スプーン、フォークが使えない）
- ・手指が弱く筆圧が弱い
- ・子供の癩癩がひどく対応がわからない
- ・次の行動への切り替えが苦手
- ・身支度が1人でできない（靴、靴下の着脱 ボタン）
- ・言葉が出ない
- ・発音が悪く聞き取りづらい
- ・スキップ、縄跳びが苦手

■保護者面談

5月、10月 個別支援計画書更新に伴う保護者面談を行います。

【家庭支援】

就学という初めての経験に保護者の皆様やお子様も不安を抱える場合があります。日頃から幼稚園、保育園との連携を持ち、施設以外でのお子様の様子も把握した上でどの環境でもお子様にとって適切な支援を受けられ地域の中で安心して日常生活を送れることを目指しています。

就学先への引き継ぎ。

【他機関との連携】

様々な特性・年齢・家庭環境を持つ保護者、児童に一層寄り添う支援や、問題の早期発見、早期解決のため関係機関との相互理解を深める。

(連携先)

- ・子ども家庭支援センター（新宿区、豊島区、練馬区）
- ・保育園
- ・幼稚園
- ・他児童発達支援事業所
- ・相談支援事業所

* 子供家庭支援センター ・利用必要児童についての情報共有→利用、相談に繋げる ・家庭内での問題について密に連絡をとり合う

* 保育園、幼稚園 通常保育時、行事を見学
保護者の同意を得て連携会議にて情報共有（個別支援計画書に反映。）

*

【移行支援】

就園、就学についての疑問やご質問について情報提供をします。
また、必要に応じて面談、就学支援シートの記入を行います。

【職員の質の向上】

- ・発達、障害に関する外部への研修（オンラインも含む）
- ・事業所内での勉強会（療法士による専門研修）
- ・施設内研修（安全管理 事故防止）
- ・他事業所 見学会、カンファレンス（専門的分野での勉強会、意見交換会）